

赤い羽根福祉基金 第4回助成決定にあたって

1 募集の概要

- 赤い羽根福祉基金（以下「基金」）では、第4回助成（平成31年度事業）に係る助成応募要項を平成30年12月21日に公表し、平成31年1月21日まで募集を行いました。
- 募集にあたっては、基金が助成対象とする事業がどのようなものであるか、その趣旨が応募団体に明確に伝わるように応募要項を改定しました。
- 具体的には、既存の制度・施策では対応できない全国に共通する生活課題や福祉課題を取り上げ、多機関と連携・協働しながら必要な活動や人材、ネットワークなどの社会資源を創り出すことをめざしていること。また、内容が先駆的、モデル的で、今後全国または広域的な広がりが期待できるものを対象としていることを、応募要項に明記しました。

2 応募状況の概要

- 新規助成として28都道府県から98件(応募額計5億6,927万円)の応募が寄せられ、継続助成として10件(7,986万円)の応募が寄せられました。
- 新規助成の応募件数は、前年と比較すると約半数となりましたが、これは応募要項を改定し、基金の目標を明確に示したことにより、基金の趣旨に合致した応募に絞られた結果であると考えています。
- 第4回助成で新規助成として応募のあった98件の概要は、以下のとおりです。

(1) 事業別内訳

| 事業部門 | 第4回応募 | | (参考) 第3回応募 | |
|-------------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 支援事業・活動 | 55件 | 56.1% | 118件 | 60.8% |
| 活動基盤・ネットワーク | 39件 | 39.8% | 63件 | 32.4% |
| 調査・研究事業 | 4件 | 4.1% | 13件 | 6.7% |
| 合計 | 98件 | | 194件 | |

(2) 部門別内訳

| 部門 | 第4回応募 | | (参考) 第3回応募 | |
|----------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 子ども・家庭支援 | 27件 | 27.6% | 48件 | 24.7% |
| 高齢者支援 | 11件 | 11.2% | 24件 | 12.4% |
| 障がい児・者支援 | 26件 | 26.5% | 39件 | 20.1% |
| 災害関連 | 7件 | 7.1% | 14件 | 7.2% |
| 地域福祉 | 27件 | 27.6% | 69件 | 35.6% |
| 合計 | 98件 | | 194件 | |

(3) 応募団体別内訳

| 団体種類 | 第4回応募 | | (参考) 第3回応募 | |
|--------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| NPO法人 | 45件 | 45.9% | 105件 | 54.1% |
| 社会福祉法人 | 11件 | 11.2% | 29件 | 14.9% |
| 一般社団法人 | 15件 | 15.3% | 25件 | 12.9% |
| 公益社団法人 | 4件 | 4.1% | 3件 | 1.5% |
| 任意団体 | 20件 | 20.4% | 32件 | 16.5% |
| その他** | 3件 | 3.1% | 0件 | |
| 合計 | 98件 | | 194件 | |

** 一般社団法人、社会福祉法人、NPO法人による共同提案、消費生活協同組合

- 新規助成の応募内容の傾向としては、子どもの貧困に係る居場所づくりや、子ども・子育てを支援する活動が多く見られたほか、外国にルーツを持つ子どもたちの就学や就職を支援する活動も複数見られ、子どもを支援する制度の枠を超えた様々な取り組みが展開されていることがうかがえました。
- また、障がいのある方やひきこもりの方の就職、就農による社会参加を支援する活動や、シニア世代の社会参加をはかる活動など、地域の助け合いで社会的排除や孤立、孤独の課題に立ち向かおうとする応募も目立ちました。

3 助成決定の概要

○選考にあたっては、予備審査（費用査定を含む）を実施したうえで、平成31年3月1日に審査委員会を開催しました。

○審査の結果、新規助成事業として11件（助成額計6,990万円）、継続事業として10件（助成額計6,991万円）の、合計21件を、第4回助成事業として決定しました。新規助成の採択率は11.2%となりました。

○助成決定した新規助成事業の概要は以下のとおりです。

(1) 事業別内訳

| 事業部門 | 第4回助成 | | (参考) 第3回助成 | |
|-------------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 支援事業・活動 | 3件 | 27.3% | 2件 | 25.0% |
| 活動基盤・ネットワーク | 6件 | 54.5% | 6件 | 75.0% |
| 調査・研究事業 | 2件 | 18.2% | 0件 | 0.0% |
| 合計 | 11件 | | 8件 | |

(2) 部門別内訳

| 部門 | 第4回助成 | | (参考) 第3回助成 | |
|----------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 子ども・家庭支援 | 2件 | 18.2% | 3件 | 37.5% |
| 高齢者支援 | 0件 | 0.0% | 0件 | 0.0% |
| 障がい児・者支援 | 1件 | 9.1% | 3件 | 37.5% |
| 災害関連 | 3件 | 27.3% | 0件 | 0.0% |
| 地域福祉 | 5件 | 45.5% | 2件 | 25.0% |
| 合計 | 11件 | | 8件 | |

(3) 応募団体別内訳

| 団体種類 | 第4回助成 | | (参考) 第3回助成 | |
|--------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| NPO法人 | 7件 | 63.6% | 1件 | 12.5% |
| 社会福祉法人 | 2件 | 18.2% | 1件 | 12.5% |
| 一般社団法人 | 2件 | 18.2% | 2件 | 25.0% |
| 任意団体 | 0件 | 0.0% | 3件 | 37.5% |
| その他 | 0件 | 0.0% | 1件 | 12.5% |
| 合計 | 11件 | | 8件 | |

○助成決定した継続助成事業の概要は以下のとおりです。

(1) 事業別内訳

| 事業部門 | 第4回助成 | | (参考) 第3回助成 | |
|-------------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 支援事業・活動 | 3件 | 30.0% | 3件 | 14.3% |
| 活動基盤・ネットワーク | 7件 | 70.0% | 15件 | 71.4% |
| 調査・研究事業 | 0件 | 0.0% | 3件 | 14.3% |
| 合計 | 10件 | | 21件 | |

(2) 部門別内訳

| 部門 | 第4回助成 | | (参考) 第3回助成 | |
|----------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 子ども・家庭支援 | 3件 | 30.0% | 2件 | 9.5% |
| 高齢者支援 | 1件 | 10.0% | 1件 | 4.8% |
| 障がい児・者支援 | 4件 | 40.0% | 3件 | 14.3% |
| 災害関連 | 1件 | 10.0% | 4件 | 19.0% |
| 地域福祉 | 1件 | 10.0% | 11件 | 52.4% |
| 合計 | 10件 | | 21件 | |

(3) 応募団体別内訳

| 団体種類 | 第4回助成 | | (参考) 第3回助成 | |
|--------|-------|-------|---------------|-------|
| | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| NPO法人 | 1件 | 10.0% | 5件 | 23.8% |
| 社会福祉法人 | 2件 | 20.0% | 5件 | 23.8% |
| 一般社団法人 | 5件 | 50.0% | 5件 | 23.8% |
| 任意団体 | 1件 | 10.0% | 3件 | 14.2% |
| その他 ※ | 1件 | 1.0% | 3件 | 14.2% |
| 合計 | 10件 | | 21件 | |

※「その他」は、2団体以上の共同提案を含む。

4 選考の考え方

- 平成 31 年度は基金設立から 4 年目を迎えます。最大 3 か年の助成が可能な基金にとっては、継続助成のサイクルが一周回ったこととなります。そのようななか、審査委員会では、新規、継続助成とも、助成年限とその効果を慎重に判断したうえで選考を行いました。
- 具体的には、複数年度助成で応募のあった新規助成案件について、達成目標に対して年限を前倒しして実施することを促して助成決定したケースがあります。また、助成後の活動継続の姿を描きながら着実に達成計画を立案している活動を評価したことも、第 4 回助成の特徴です。これは、助成を受ける前に準備を進めてきた活動や、決定を受けてすぐに課題解決に向けて走り出せる活動を支援するという、「1 団体あたりの助成上限額 1 千万円」という助成規模の大きな民間資金としての考え方を示したものです。
- また、活動を進めるにあたって、さまざまな団体と連携、協働していることを重視することはもちろんですが、広く市民の参加を促し、活動を通じて支援者を増やすといった運動性、言い換えれば「赤い羽根らしさ」を重視したことも第 4 回助成の特徴といえます。
- 新規団体の採択理由については、別紙にて講評を記したので合わせてご覧ください。
- 今後決定団体に対して基金事務局には、活動団体に寄り添い、ともに活動を作り上げていくことを心がけていただくことを期待します。
- また、この度不採択となった案件についても、不採択通知において、基金として評価できるポイントをできる限り提示しつつ、今後の活動に向けてのメッセージをお示ししておりますのでご参考にさせていただければ幸いです。
- 最後に、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、本基金が個人、企業、団体の皆さまからの想いのこもった寄付を財源としていることを念頭に、着実な事業の実施と社会へのインパクトの発信を心がけてくださいますようお願いいたします。

赤い羽根福祉基金

審査委員会 委員長 和田敏明

| 団体名 | プロジェクト名称 | 講評 |
|-------------------------|---------------------------------------|--|
| 社会福祉法人 日本国際社会事業団 | 日本語教室を介した外国につながる家族へのアウトリーチと相談支援事業 | 外国にルーツを持つ家族が抱える課題に対して、ソーシャルワーカーが日本語教室や学習支援の場からアプローチする点を評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 抱樸 | 高校中退防止と困窮孤立する子供への居住就労生活の総合支援事業 | 子どもを中心とした切れ目のない包摂型世帯支援により、孤立困窮する子どもたちに対する居住、就労、生活の総合的支援のモデル開発につながる意義深い活動であると評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 親子の未来を支える会 | 学校における高度な医療的ケアを担う看護師ネットワーク構築事業 | 医療的ケアを必要とする子どもたちへの関心や課題意識が高まる中、医療的ケアを必要とする子どもたちが学校現場で看護師から支援をうけることができるよう、環境整備をめざしている点を評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 ぎふNPOセンター | 災害にも強い地域づくりに向けた調査及びスキーム構築事業 | 災害時における市町村域の支援体制や協働のためのネットワーク構築のモデルとして、調査、研修内容をまとめ広く発信することを評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 さくらネット | 医療的ケアを必要とする人と進む減災活動推進ネットワーク事業 | 「医療的ケア」を必要とする人の災害支援体制構築は、早期整備が求められており、その支援ネットワークを構築・強化する取り組みの意義を評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 岡山NPOセンター | 災害時における民間ネットワーク構築及び支援体制のノウハウ移転キャラバン事業 | 7月豪雨災害時に取り組んだ組織間連携やNPO等による専門性のある支援活動などを通じて、災害支援のプラットフォームを構築されたことを評価して助成します。 |

| 団体名 | プロジェクト名称 | 講評 |
|--------------------------------|---|---|
| 社会福祉法人 釜石市社会福祉協議会 | 林業を通じた持続可能な 生きがい就労創生事業 | 「かまいし版地域共生プログラム」における「林業と福祉が連携する『生きがい就労』」事業の先駆性を評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 WorldOpenHeart | 加害者家族の社会的孤立 を防ぐための全国支援 ネットワーク構築事業 | 地域において、犯罪加害者家族への理解を促進する活動である点を評価して助成します。 |
| 一般社団法人 日本認知症本人ワー キンググループ | 認知症の本人が参画し共 に生きる地域を創る希望 のリレー推進事業 | 認知症当事者の発信を焦点に置き、従来の社会の認識の変革を生み出していくことを意図している点を評価して助成します。 |
| 特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台 | 再犯防止の効果的取組 みを全国に波及させるた めの調査研究 | 自治体における、具体的な再犯防止の取り組みの普及をめざす必要性を評価して助成します。 |
| 一般社団法人 居住支援全国ネット ワーク | 質の高い居住支援のあり 方と人材育成に関する調 査研究事業 | 地域における居住支援や新たな住宅セーフティネット作りに取り組む意義や必要性を評価して助成します。 |